

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300051		
法人名	株式会社 おいでの里		
事業所名	グループホームスローシティピアノ	ユニット名	ソナタ
所在地	宮崎県延岡市平原町1丁目854-1		
自己評価作成日	平成27年1月9日	評価結果市町村受理日	平成27年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_nraf_search_list_list=trug&PrefCd=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スローシティピアノでは、ゆっくりが基本となっていることには変わりはないが、利用者様の認知症の進行や下肢筋力低下が進む今日で、回想療法や生活リハビリにも力を入れている。季節ごとの行事の開催、家族、地域、ボランティアに協力を要請しての会話や演芸、音楽での刺激や外出活動での気分転換を多く試みている。個別ケアについては、各ユニットで統一したケアが行えるようにカンファレンスを行っている。職員のスキルアップに認知症実践者研修、マナー研修、全国GH大会、けいめい病院(コウノメゾット)の研修に参加している。新人(介護経験1年以内)職員も多いが、経験者に学ぼうとする姿勢や経験者は利用者を理解しようと試行錯誤しながら支援する態度が、利用者はもちろん、施設関係者や家族からも訪問しやすい、温かさを感じる所となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「スローシティピアノ」の理念であるゆっくりが基本となっており、利用者の見守りに配慮している。若い職員も多く、経験者と共に、相互に学びあう仲の良い明るいホームである。また、市内の大学生、高校生の研修やボランティアも受け入れるなど、地域への貢献にも努力している。利用者の笑顔を多く引き出そうと、回想療法や作業療法など多くの支援プログラムも取り入れており、職員は外部研修などにも積極的に参加し、ケアの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念に基づき、月に一度の定例会や職員間の話し合いを行い、心の通った介護を目指している。		理念の「ゆっくり」を基本に、利用者のできることは急がず見守るケアに努めている。職員間で理念の共有が図れるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方による公演会や行事での交流、防災訓練の参加活動を行っている。		自治会にも加入しており、地域の防災訓練等の声がかかるなど交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同市内の福祉大生の研修、高校生のボランティア、アルバイトの受け入れ等を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、第二木曜日の午後二時から開催。利用者の状況報告や活動予定を話し、質問の受け付けや指示を仰いでいる。		利用者本人、家族代表を含め、多彩なメンバーで定期的開催し、双方向的な会議となっている。今回は感染に関してのアドバイスもあり、日々の支援に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者に電話や直接出向いて、書類の適切な書き方や支援についての指導を受けている。		書類の書き方や利用者の実情、ニーズを市の担当者に電話したり、直接出向き意見をもらうなど、連携が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加をもとに、身体拘束をしない為のケアについて話し合いをし、ケアに取り組んでいる。		身体拘束について、職員間で研修している。玄関は「不審者侵入防止」のため、インターホン対応をしている。また、病院からの勧めもあり、ご家族の了解を得て、夜間のみ、つなぎ着用の利用者が1名いる。	利用者の安全を考慮しているが、今一度、原点にかえる工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加に加え、定例会等でも日頃のケアが虐待になっていないかを話し合い、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護の制度について認識している。職員も学習できる場を持ち、活用できるようにしていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際は、利用者や家族等の納得のいくまで説明を行い、締結している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会を通し、外部から意見を頂く機会を設け、家族からの意見や要望には、随時対応している。	ご家族には、手紙や来訪時にお茶をだすなど、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。管理者は、意見・要望を十分に引き出しているのか気にかけている。	管理者自ら、利用者やご家族の意見を引き出す工夫をしているが、今後は、もう一歩踏み込んだ取組を期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見がでると、室長から管理者へ話が上がるようになっていく。また、管理者会議、リーダー会議、定例会等、意見交換の場を設けている。	毎月ユニットごとに会議を行い、さらに全体会議で意見を出し合うなど、意見交換の場がもたれている。また、申し送りとは別に、なんでもノートを準備し、気づきや意見を書いてもらい、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、正規雇用、パートからなるが、全ての職員がやりがいを感じ、常に向上心を持って働けるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が順番で研修に参加しており、スキルアップを目指している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設での勉強会や見学会などの計画がある。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が気持ちを出しやすくできるよう、コミュニケーションを大切にしており、困っている事、不安な事、要望等を、ゆっくりと傾聴している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、家族とのコミュニケーションも大切にしており、不安や悩みを共有できるよう支援している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が求めている支援を見極め、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全て職員がするのではなく、利用者ができる事はしてもらい、共感し、信頼しあえる関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人と家族との関係の理解に努めており、面会時には状況報告をし、利用者本人と家族との絆が深まるよう支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理・美容室や食事処に出かけている。また、家族だけでなく、昔の同僚、地域の人と面会される方もいる。	なじみの理・美容室へ出掛けたり、ホームに出張してもらうなど、なじみの関係が続くよう支援している。また、地域の友人や知人が来訪した際には、くつろげるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを充実させるよう、毎月計画を立て、皆で楽しんで活動している。また、生活の部分で協力し、自然と交流できるよう支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、支援していくよう努めている。		/	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや希望に関心を持ち、コミュニケーションを大切にしている。把握が困難でも職員全員で話し合い、理解に努めている。		担当職員を中心に、思いや意向の把握に努め、全職員で気づきを話し合い、利用者本位の支援ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時、利用者の生活歴や暮らし方を伺い、それまでの暮らしと大差ない生活ができるよう支援している。		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子観察、介護記録、バイタルチェックにより健康管理を大切にし、朝礼、申し送り職員全員が状況把握に努めている。		/	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見の出しやすいBS法にて、利用者、家族の求める介護について意見を出し合い、その意見を基に、介護計画を作成している。		担当制を設けているが、利用者、家族の意見を基に、全職員で意見交換がなされ、計画に活かされている。毎月、モニタリングやカンファレンスも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて一日の様子を記録し、センター方式で一週間の記録をし、その都度、気づいた所も記録し、実践に活かしている。		/	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況・要望に応じて、柔軟な対応ができるように支援に取り組んでいる。		/	

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同市内の福祉大生による体操を行ったり、ボランティアの方による公演会を楽しんでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力機関をかかりつけ医とし、定期的に往診をし、馴染みの関係を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者は、協力医がかかりつけ医となっており、往診体制もできている。専門的な診療は、家族と連携を取り、受診支援がなされている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で連絡できる体制づくりをしており、介護職が日常の管理を行い、状況の変化を管理者、看護師に報告し、協力医から指示を受け、対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、家族や病院関係者と密に連絡を取り、情報交換や相談に努めている。また、退院後の環境整備を整えておく。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事、出来ない事を見極め、利用者、家族の意向や希望に沿えるよう、医療、介護がチームとして支援できるよう取り組んでいる。	本人・家族の意向を踏まえ、かかりつけ医、職員が連携を取り、同意の下、安心した最期が迎えられるように取り組んでいる。一昨年、看取りも経験している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備え、応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が避難できる訓練を行っている。これからは地域の方々の協力体制を築き、実施していきたい。	運営推進会議での意見を参考に、突発的な避難訓練も取り入れるなど、定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族から利用者の性格を教えて頂いたり、日々の生活の中で感じ取り、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応が出来るように努めている。	プライバシーの尊重などの研修を行い、トイレ誘導の際などに、利用者に合わせたさりげない言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の思いや希望に気づき、肯定し、自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日の希望に沿って支援できるように心掛けています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、利用者自身が服を選ばれている。また、月の活動予定でオシャレの日を作り、化粧やマニキュアをしたり等、楽しまれている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意欲や体調に応じ、配膳や下膳等を見守りながら行っている。たまに外食を計画し、実施している。	季節を感じる食材を用意し、利用者も調理や味付けに参加するなど、食事が楽しめるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後記録しており、嚥下困難な方には、ミキサー食やトロミ剤を使用し、一人ひとりに応じた支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、出来る所は利用者本人にして頂き、出来ない部分を介助している。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や排泄前の仕草などから、一人ひとりの排泄パターンを理解し、排泄の失敗やオムツの使用を減らせるように支援を行っている。		排せつチェック表を使用し、尿意のない方もパターンを把握しながら、トイレ誘導へのさりげない言葉かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録にて、排泄パターンや習慣を把握できるよう努めている。また、適度な運動や水分補給を心掛け、便秘の予防をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックと体調、利用者の希望を踏まえ、ゆっくりと気持ち良く入浴できるように配慮している。また、好みのシャンプーや石鹸を使用されている方もいる。		日曜日以外は、毎日入浴できるよう支援している。本人の好みのタオル、シャンプー、入浴剤なども使用し、ゆっくり入浴できるようにしている。入浴を拒む方には、職員の工夫を凝らした言葉かけで入浴できるよう努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、照明や居室の温度など、環境整備に配慮している。また、寝付けない方には、話をゆっくりと聞くなどして、安心して眠れるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は、ファイルにて確認できるようにしており、薬の変更や留意事項は、申し送りノートに記載し、周知徹底を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、食器洗い、新聞たたみ等を手伝ってもらい、役割を持って過ごして頂いている。また、月の活動予定の中で楽しみを持ち、過ごして頂けるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの希望を把握し、散歩やドライブ、買い物等行っている。また、家族の協力を得ながら、外食に行かれる方もいる。		利用者の希望を把握し、買い物や散歩に出掛けている。また、毎月の行事として、ドライブや家族の協力の下、外食を楽しまれる方もいる。年に一度の鮎やなへは、利用者全員で出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で利用者のお小遣いとして管理している。希望に応じ、一緒に買い物に行き、お金を使えるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話でのやりとりをする事が出来る。また、家族との交換ノートをしている方もおられる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快な思いをしないよう、温度調整等を心掛けている。また、季節感を感じられるよう壁面や花などを置き、居心地良く過ごせるよう工夫している。		食堂兼リビングには、ソファや椅子がおかれ、好みの場所でくつろげるよう配慮している。季節を感じる飾り付けと共に、換気や温度調節にも工夫を凝らし、利用者が不快にならないような配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に一人掛けソファや皆で過ごせる空間がある。また、テラスには自由に出入りできるようになっており、思い思いに過ごせるよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものや好みのものを持ち参して、居心地良く過ごせるよう工夫している。		ハンガースタンドやソファ、たんすなど、好みの物が配置され、利用者が居心地良く過ごせる居室になっている。また、自室の入口に家族との写真ははり、間違えることのないよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーとなっている。また、タイプの違うトイレを配置し、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。			